



こちらの2次元コードから色鮮やかなカラー版をご覧ください。  
(5月1日以降)

市制施行記念日は4月10日です

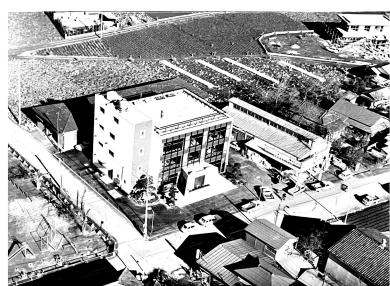
# ★富士見市★

# 水谷公民館だより

編集水谷公民館だより編集委員会  
発行富士見市立水谷公民館富士見市水谷1-13-6  
TEL 049(251)1129・FAX049(255)9886・✉ fkm-mi@coral.ocn.ne.jp

昭和20年代後半には、販売・購買事業にも積極的に取り組み、埼玉県下では最も早い製茶工場を立ち上げ、生産を開始しました。水谷農協のこうした事業の拡大は、まさに戦後の農協の多角化経営の始まりでした。

昭和30年代後半に入り三丁目・高芝・姥袋（現在の水谷東地域）や寺下など田んぼを埋め立てた宅地開発が急速に進み、東京のベッドタウンとして地域の人口形態は大きく様変わりしていきました。この状況は、昭和40年代前半の前沼（水谷東



開店当時の水谷支店

安定と発展に努めました。農協の発展は、即ち、組合員である農家の方々の生活基盤の安定にも深く関わっていました。昭和20年代後半には、販売・購買事業にも積極的に取り組み、埼玉県下では最も早い製茶工場を立ち上げ、生産を開始しました。水谷農協のこうした事業の拡大は、まさに戦後の農協の多角化経営の始まりでした。



## 現在の水谷支店

「合併・統合」は、企業等において組織の拡大や経営の合理化を図るためによく用いられる手法であり、現在の経済社会においては、ニュース等でよく耳にする言葉であります。

このたび、水谷地域の農業振興や経済発展に密接に関わってきた水谷農業協同組合（以下農協）が、統合による新店舗への業務移行のため、惜しまれつつもその伝統ある歴史に幕を閉じます。

そこで、今回は水谷農協の閉鎖にスポットを当て、ここまで歩んできた道程について紹介します。

担当  
萩元編集委員

以後、水谷農協としての運営は、昭和57年7月の入間東部農協との合併まで続きました。また、昭和60年4月には、西みずほ台・針ヶ谷地域の業務拡大を図るため、「入間東部農協みずほ台支店」が開設されました。



みずほ台支店

にわたり実施された「みずほ台土地区画整理事業」及び引き続き実施された針ヶ谷の土地区画整理は農家の生活形態に大きな影響を及ぼしました。農協のみずほ台支店ができたのもみずほ台地区の土地区画整理事業の頃です。そして、農家にとつて農協は、土地利用や不動産管理、税金相談など多岐に渡つて必要不可欠な存在となりました。

昭和45年5月には現在の店舗兼事務所が完成し、経営基盤の安定化が図られ、地元に密着した事業運営は、確固たるものへと変貌を遂げました。

一方、地域の都市化が進み、専業農家も過渡期を迎えていきました。そこで、農協はこの事態に

An architectural rendering of a modern building with a dark, angular facade featuring blue and white panels. Large glass windows are integrated into the design. The building is set against a blue sky with white clouds and includes a green roof and a paved area with a green lawn.



## 新しい農協の店舗

水谷農協の閉鎖にあたり、統合に至るまでの経緯等について鈴木支店長にお聞きしました。

これからの  
水谷農協

昭和41年に開園した「みずたに幼稚園」は、農協が運営する幼稚園としては、愛媛県の今治市埼玉県の川越市に続いて全国で三番目でした。当時、水谷地区には幼稚園はなく、農家の方々の強い要望を受ける形で設置されました。開園後は、運営面で様々な課題に直面し、紆余曲折を重ねながら、昭和51年からは「学校法人水谷幼稚園」に運営を移譲し、現在に至るまで、富士見市の児童教育の一翼を担います

には川越市、入間市、狭山市等の店舗との合併により、「いるま野農協」が新設され、現在の「いるま野農協水谷支店」並びに「いるま野農協みづほ台支店」に名称変更されました。

建て替えの検討をする由  
みずほ台支店との店舗統  
合の話が浮上しました。  
その後、同様な問題を抱  
えていた鶴瀬支店が加わ  
り、さらなる検討を重ね  
た結果、最終的に南畠支  
店を含めた4支店統合に  
落ち着きました。

昭和23年5月29日	「水谷農協」として設立認可される。（組合員数346名、うち準組合員数9名）	
昭和27年	産業組合時代の昭和15年から行っていた製茶事業に対し、工場設備の拡充・合理化を図り、埼玉県下で最も早い生産工場となる。	
昭和30年	製茶工場は軌道に乗り、製茶生産は最盛期を迎える。（生産額：185万円）	
昭和31年9月	3村（水谷・鶴瀬・南畠）合併により富士見村となる。行政区は、北足立郡から入間郡へと変更される。	
昭和30年代後半	高度経済成長の波に乗り、購買部門の多角的経営に乗り出す。製茶工場廃止後の施設を改修し、Aコープ（食料品・雑貨）を開店。車社会の到来に即応したガソリンスタンドの設置等	
昭和41年4月	「みずたに幼稚園」を開園	
昭和45年5月	現在の店舗兼事務所が竣工	
昭和57年7月	「入間東部農協」と合併し、「入間東部農協水谷支店」に名称変更。	
平成8年4月	川越市、入間市、狭山市等との合併により、「いるま野農協」が新設され、「いるま野農協水谷支店」に名称変更。「水谷・みずほ台・鶴瀬・南畠」4支店の統合により、「いるま野農協水谷支店」は閉鎖され、新たに「東部富士見支店」となる。	
令和4年6月		